

競技注意事項

1 競技規則について

本大会は2025年度（公財）日本陸上競技連盟競技規則及び本大会申し合わせ事項によって実施する。

2 練習について

(1) 練習は、係員の指示に従って行うこと。

(2) 練習場所について

アップについては、定められたところ（バックストレート、バックストレート奥の直走路）をゆずり合って、安全面に注意して使用すること。

周回競技を行っていないときはバックストレートを使用してもよい。ただし逆走やミニハードルを使用して行うアップは禁止する。（周回競技開始5分前まで可能）

※棒高跳の準備・競技中は競技に支障のないように係員の指示に従うこと。

(3) 投てき物の使用は安全な場所がないため行わないこと。（公式練習のみとする）

競技開始まで	◎メイン競技場	利用可能時間	8:00～8:30	
	◆1～2レーン：中長距離	◆3～6レーン：短距離	◆7～8レーン：ハードル	
競技開始後	◎バックストレート	利用可能時間	9:00～全競技終了	
	◆1・8レーン：空き・通行	◆2～5レーン：短距離ダッシュ		
	◆6～7レーン：ハードル			
	◎バックストレート奥の直走路			
	◆1～2レーン：ジョギング	◆3～4レーン：流し・快調走		

3 招集について

(1) 招集はすべて招集所にて行う。

(2) 招集開始及び完了時刻は、下記の通りである。

	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック	競技開始30分前	競技開始20分前
フィールド	競技開始40分前	競技開始30分前
棒高跳	競技開始70分前	競技開始60分前

(3) 招集の方法について

ア 選手は招集完了時刻10分前までに招集所内の席で待機し、最終点呼を受けること。その際、競技者係にユニフォームのアスリートビブス、スパイク、シューズ（厚底）、商標等の点検を受ける。（トラック競技のみ、腰ナンバーを受け取り、出発までに右腰部やや後方に付ける。）

イ カメラ類、ラジオ、トランシーバー、携帯情報端末（デジタルメディアプレーヤーを含む）もしくは競技規則TR6.3.2に関わる電子機器を持ち込んではいけない。

ウ 代理人による点呼は認めない。2種目を同時に兼ねる競技者は、2種目同時出場届（招集所、HP掲載）を競技者係に提出し、競技の進行に支障のないようにすること。トラック競技優先とする。

エ 招集完了時刻に遅れた競技者は、棄権とみなして処理する。

オ 欠場する競技者は、招集完了時刻までに欠場届（招集所、HP掲載）を競技者係に提出すること。

カ アスリートビブスは所定の大きさのままで胸・背部両面に付けること。ただし、跳躍競技は背部または胸部のみでもよい。

4 競技について

(1) トラック競技

ア スターターの合図は英語（イングリッシュ・コマンド）で行う。

イ 不正スタート1回で失格とする。ただし、小学生については、同じ競技者が2回の不正スタートをしたとき、その競技者を失格とする。

ウ トラック競技は全て写真判定装置を使用する。

エ 予選出場者が8人以下となった場合は、決勝時刻に決勝を行う。（予選の招集完了時刻に決定）

オ レーン競走においては、フィニッシュライン通過後も自己レーン（曲線）に従って走ること。

カ リレー競技に使用するマーカーは、1人1ヶ所に限り使用することができる。マーカーは前走者が取り除くものとする。

キ リレーのオーダー用紙（招集所，HP 掲載）は，各ラウンドの第 1 組目の招集完了時刻の 1 時間前までに 1 部を競技者係に提出すること。一度申告した後の変更は，招集完了時刻までに主催者が任命した医務員の判断がない限り認められない。招集完了時刻前であっても一度申告した編成の変更（オーダー用紙の差し替え）は認められない。医師の判断による変更のみ認められ，編成（走る順番）の変更は認められない。

(2) フィールド競技

ア 競技場内での練習は，全て競技役員の手配に従って行うこと。

イ 走幅跳、三段跳及び投擲種目については、全ての競技者に 3 回の試技が与えられ、上位 8 名に対して更に 1 回の試技を与える。ただし、小学生は全ての競技者に 2 回の試技が与えられ、上位 8 名に対して更に 1 回の試技を与える。

ウ 走高跳及び棒高跳については、2 回連続の無効試技により競技終了とする。

エ 跳躍の競技者は，助走路の外側（走高跳は助走路内）に主催者が用意したマーカーを 2 個まで置くことができる。

オ 走幅跳において「計測器で計測できる記録に届かなかった場合は計測しない」場合もあり得る。

カ 走高跳及び棒高跳のバーの上げ方は，最後の 1 人になり優勝が決まるまでは下表の通りとする。

（なお，各種目の高さ設定はコンディションにより変更することもあり得る）

種別・種目	練習	1	2	3	4	5	6	7	以後 1 人になるまで
中男走高跳	1m40	1m45	1m50	1m55	1m60	1m65	1m70	1m73	3cm ずつ
中女走高跳	1m15	1m20	1m25	1m30	1m35	1m40	1m45	1m48	3cm ずつ
小男女走高跳	1m00	1m00	1m05	1m10	1m15	1m20	1m25	1m30	3cm ずつ

※中学男女棒高跳の練習・競技開始の高さ、バーの上げ方については当日発表する。

5 競技用具について

(1) 投てき用具は，競技場に備え付けのものを使用する。ただし，棒高跳用ポールに限り，個人所有のものを使用することができる。

(2) スパイクシューズのピンは 7 mm 以下とする。走高跳とやり投げは 9 mm 以下とする（2 段平行ピンまたは平行柱ピンに限る）。土のグラウンドの練習で先端が丸くなったピンは使用できない。その他形状に異常が認められる場合は使用不可とする。

(3) 2023 年度より改訂されたシューズの底厚規定に準ずる。

※規定外のシューズで出場した場合は失格となる。（記録も認められない）

※フィールド種目のシューズについては，改定規則適用外とし計測は行わない。

※小学生以下は適応外とし，計測は行わない。

6 表彰について

表彰式は行わない。各種目 3 位までの入賞者には賞状を授与する。

7 その他

(1) 発病（新型コロナウイルス感染症も含む），負傷に対しては応急処置以外の責任は負わない。医務室は本部にある。

(2) 貴重品の管理は各人で行うこと。紛失の責任は負わない。待機場所は 1 日ごとに撤収し、連続使用はできない。

(3) 当日の記録は，アナウンス・スポーツセンター体育館裏の記録掲示板への掲示のみとする。後日、鳥取陸協 HP 大会結果で確認することができる。